

# 原発止め、なくすこと

# 国 労 水 戸

国労水戸地方本部  
水戸市中央1-1-11  
ENYビル2F  
029-221-4008  
発行責任者 菊池志志  
編集責任者 坂本公則

職場・地域の活  
動に自信を持ち、  
引き続き、組織  
拡大に全力をあ  
げよう！

## 国労「フクシマ」交流学習会

東日本大震災と福島第一  
原子力発電所事故の発生か  
ら、2年8カ月が経過しま  
したが、被災三県の復興は  
いまだ遅々として進まず、  
いまなお29万人以上が避

難生活を強いられ、新たに  
福島第一原発の汚染水漏れ  
問題が浮上しています。東  
日本大震災を風化させず、  
被災者の生活再建と被災地  
の復興・再生を引き続き全

力で支えるとともに、原発  
依存のエネルギー政策の抜  
本的転換をめざし、何より  
も福島で起きている問題へ  
の一刻も早い対策が最重要  
課題となっています。



11月23日、国労「ウ  
クシマ」交流学習会が  
福島県郡山市内（ピッ  
クアイ）で開催され、  
水戸地方本部から53名  
が参加しました。（全  
体で215名）

会議は水戸地方本部  
赤沼書記長の司会挨拶  
で始まり、坂本福島支  
部長の開会挨拶を受け、  
主催者を代表し国労本  
部真子書記長の挨拶で  
交流学習会に入りました。  
来賓として、福島  
県平和フォーラム半沢  
副代表及び郡山地方平  
和フォーラム志賀議長  
の二人から挨拶を受け  
ました。

講演では、双葉原発

反対同盟議長の佐藤龍  
彦氏より、「原発事故  
の現状と課題」につい  
て報告を受けました。  
原発事故から2年8ヶ  
月が経過し、「原発は  
止める、冷やす、閉じ  
込めることができず収  
束したとは言えない」  
「被災者の分断・差別  
の実態」「過去・現在・  
未来の責任を求めてい  
く」「償い・謝罪が当  
たり前」であると述べ  
ました。最後に、「福  
島原発事故の最も重要  
な教訓は、今すぐ原発  
を止め無くすことであ  
る」と訴え講演を終え  
ました。

次に、高野桜氏（前



第15代平和大使 高野桜さん

被爆地ナガサキの声を世  
界に伝えるために、未来を  
担う若者を「高校生平和大  
使」として国連に派遣し、  
核兵器廃絶と平和な世界の

実現を訴え、活動を進めて  
います。東日本大震災を受  
け、昨年から東北の高校生  
も平和大使に選ばれ、福島  
県から選出され、第15代  
平和大使として福島県立小  
高工業高校の高野桜さんが  
積極的に活動を進めてこら  
れ、本年3月で任務が終了  
しました。また、新たに4  
月より第16代平和大使と  
して、同校の吉田有沙さん  
と安積高校の仲野瑞保さん  
が選出されました。  
高校生平和大使活動報告  
（2013年7月福島県平  
和フォーラム冊子より）

平和大使）より平和大  
使を昨年つとめ、国内  
外で交流して来た事  
について報告を受けま  
した。「平和とは何でし  
ょう。明日はどう生きて  
行けば良いのか。衣食  
住があり、笑って暮ら  
せる事です」「時代を  
創っていくのは私たち。  
政治に参加していきたい  
い。これからも福島  
の現状を伝えて行きたい」  
と訴えました。また、  
組織内原発立地地方本  
部より、米子・北陸・  
静岡・盛岡の4地方本  
部から反原発運動の取  
り組みについて発言を  
頂きました。

最後に国労本部真子  
書記長よりまとめが行  
われ、今回の貴重な経  
験を生かし、国労組織  
として風化させてはい  
けないと言う強い決意  
と、国労フクシマ交流  
会を継続し全国へと広  
げる取り組みの強化を  
お願いしたい。国労本  
部も運動を支えて行き  
たいと集約しました。  
閉会挨拶は、仙台地  
方本部福島県支部の小  
檜山委員長から、国労  
「フクシマ」交流学習  
会を支援し参加頂いた  
仲間に対しお礼が述べ  
られました。最後に国  
労本部真子書記長の団  
結頑張るうを三唱し終  
了しました。